

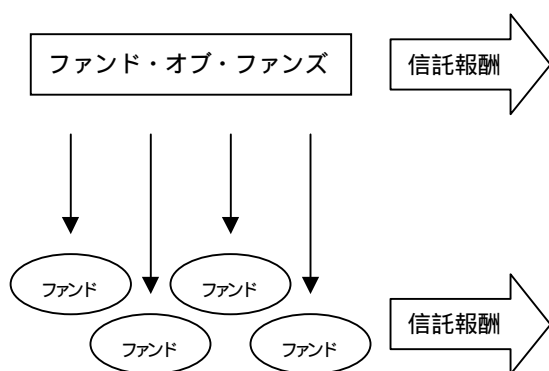
ボブベックのやさしい投資信託

第34回 株式型投資信託のリスク その10

前回はファンド・オブ・ファンズのメリットについて説明しました。今回は、デメリット、そして販売する際の注意点について説明しましょう。

(7-E)ファンド オブ ファンズ デメリット

デメリットとして一番大きいのは、やはり手数料の二重取りという事でしょう。投資対象となるファンドは信託報酬を取っているのに、ファンド オブ ファンズも信託報酬を取るのですから、手数料の二重取りと言う批判に対して反駁する人はいないでしょう。投資対象ファンドの信託報酬が1.5%で、ファンド オブ ファンズの信託報酬が1.5%だと、合計3%の信託報酬が毎年差し引かれる事になるのですから。



特に、各投資対象となるファンドが信託報酬を徴収しているということが表面的には分かりづらくなっているため、お客様に販売する時には、その点をきちんと説明しなければいけません。

チェック項目

信託報酬を、普通のファンドよりも多く支払っているのですから、それだけのメリットがなければ、お客様に喜んでもらう事は出来ません。そこで、ファンド・オブ・ファンズがお客様に喜んでもらえ

るものかどうかを判断するチェック項目を考えてみましょう。

-1 分散投資効果が期待できるか？

分散投資は、性格の違う投資対象を組み合わせてこそ、意味があるのです。例えば、電力会社9社に投資しても、それは分散投資とは言えません。電力会社や鉄鋼会社、インターネット関連会社など、様々なタイプの会社に投資することで分散投資の効果は発揮されるのです。ファンド・オブ・ファンズも同じ。成長型ファンドばかり組入れても、分散効果は発揮されないのです。(日本の投資信託を見ると、成長型ファンドの殆どは、同じような銘柄を組入れています。)ファンド・オブ・ファンズで分散効果を狙うならば、成長型ファンドやバリュー型ファンドなどに分散していくのかどうかを確認しましょう。

-2 ファンドを入替えるのか？

どういう手法であれ、その時々に応じて、ファンドを入替えるのであれば、ファンド・オブ・ファンズに信託報酬を支払う意味もあるというものです。どういう考え方でファンドを取捨選択し、相場状況にあったファンドに投資していくのか。受益証券説明書をよく読んで、理解しましょう。最初に投資するファンドを決めてしまい、設定以後は資金の流出入に合わせて、それらのファンドに投資していただければ、個人投資家がそれぞれのファンドを定期的に購入するのと、それほど違いはありません。

-3 面倒な手続きを省略したい時

お客様が、購入したファンドが、ファンド・オブ・ファンズの中に揃っている上、効率的にファンドを購入したいと考えている場合。例えば、購入したいファンドが5本あるのに、それを購入するのに、5社の証券会社や銀行に行かないと購入できない場合。このとき購入する際の面倒な手続きやその後の管理を考えると、手数料を多少払っても、ファンド・オブ・ファンズの方が良いと考える投資家の方もいらっしゃるでしょう。その場合には、投資対象となる

ファンドが、どのようなファンドなのかを
きちんとお客様に説明する事が肝要です。
つまり、ファンド・オブ・ファンズは普通
のファンド以上に、説明が必要なファンド
なのです。